

ライスアイランド

# RI weekly レポート

～ シリアル・ルネッサンス ～

<http://www.riceisland.co.jp>

## 「リサイクル」と「リデュース」

近年、名刺や手提げ袋、封筒などありとあらゆる紙に書いてある「再生紙を利用しています」という言葉これは「私はリサイクルされた環境に優しい製品を使っていますよ」とアピールしているように見えます。しかし、このことはそれほど自慢することなのでしょうか？

日本は世界でも珍しく、江戸時代から古紙の再利用が民衆レベルで徹底していた国で、当時から紙は「再生紙」と相場が決まっていました。

表1に示す様に2世紀近く、古紙含有率はほとんど変化していません。現在、100%バージンパルプの紙はほとんどありません。日常使用するのはカラーコピー用紙と牛乳パックくらいです。その他の紙はことごとく再生紙で、この状況は戦後一貫して変化はありません。

こういったことを背景にわざわざ「再生紙を使用しています」と書くのはなぜでしょうか？

理由は「環境に優しいから安心して消費してください」又は「当社は環境に配慮しているので偉いのです」の2通りしか考えられません。

再生紙を否定する訳ではありませんが、近年の環境ブームで環境への意識が高まった半面、この不可解な表記のために間違った認識が広まり、紙の消費に抵抗が無くなってしまったのです。その結果、日本人の1人当たりの紙の消費量は245.7kg(2004年)で24年間に62%も増加しています。また、世界の平均が48.5kg(日本は世界平均の5倍)です。日本の紙の消費量は明らかに異常です。

また、近年、ファーストフード店の紙コップで「この製品はケナフを使用しています」という表示をみかけます。ケナフとはハイビスカスに似た1年草でCO<sub>2</sub>を杉の約15倍も吸収し、空気や水をきれいにしてくれる地球にやさしい植物だそうです。確かに、自然界でケナフが朽ちて土中に戻ればCO<sub>2</sub>を固定することができ、CO<sub>2</sub>削減に一役買うかもしれません。しかし、紙製品として使用して結果的に焼却してしまえば、せっかくケナフが固定したCO<sub>2</sub>が再び大気中に放出されるのです。これでは、製品の製造と焼却に使ったエネルギー分だけがCO<sub>2</sub>増えるので余計に環境に負荷をかけることになるのではないのでしょうか。

ここ20年ほどゴミの削減や森林保護の観点から紙のリサイクル運動が盛んですが、「リサイクル」よりも「リデュース」、すなわち紙の消費量を抑えるための運動をすべきではなかったのでしょうか？

ゴミ削減のための3R「リデュース(削減)」「リユース(再使用)」「リサイクル(再利用)」では、リサイクルが一番最後に来ています。まずは、消費量を抑え、製品を再使用し、加工して再利用するのは最後の手段です。今後、個人だけでなく、

企業のより深い知識さが期待されます。